

【研究テーマ】 中心市街地における施設分離型の小中一貫教育のあり方

1 研究の目的

城内中グループは、学校教育目標「3Sの精神を身に付けた生徒」を、「よき社会人＝シチズンシップの精神をそなえた市民の育成」ととらえ、その方策の一つに小中一貫教育を掲げた。そして、市から示された4つの視点を基に、9年間の教育課程の継続性・系統性の研究に重点をおき、子ども・教職員全員が主体的に取り組める体制づくりや、一貫教育のよさをいかした取組を研究の目的とした。

2 取組内容

【視点1】

○学校教育目標の共有化と副題の設定

【視点2】

○9つのJATプラン作成と実践（9年間の系統的な教育課程）

○小中一貫教育合同研修会（年3回）の開催

○JATプラン会議（9つのグループ）の定期的開催

・JATプラン長を3校に分散して役割分担

○3校交流授業参観の実施

・3校共通授業参観視点シートの活用

○軸となる取組【外国語・英語】

・小学校外国語授業への乗り入れ授業の実施

・姉妹校との国際交流の実施（小・中）

○軸となる取組【しずおか学の実践】

・地域の歴史、文化を題材にした9年間の系統的な指導

・学区で行う職場体験学習

・地域ボランティアとの協働的な学習

・京都上賀茂小学校との交流

・地域貢献活動（夏祭りボランティア・モラル向上パンフレット配布等）

【視点3】

○小中合同集会の開催

○中学校一日体験入学（年3回）の実施

・小小合同学活授業（仲間づくり）

・小中合同英語授業（中学生が Assistant Teacherを行う）

・体験入学時の企画運営の統一化

○小中合同引き渡し訓練：引き渡しカードの統一化

○城内中グループ校マスコットキャラクター選定

・総合的な学習の時間ファイル表紙に活用

・称揚丸シールを製作し活用

○学校司書小中一貫交流会の実施

・9年間を見通した図書オリエントーション

・購入、廃棄図書の合同選書

・読書、貸し出し図書の傾向の共有

【視点4】

○小中合同地域クリーン作戦の実施

○小中一貫教育準備委員会の開催

【静岡型小中一貫教育を効果的に進めていく上での取組】

○定期的な小中一貫だよりの発行

○小6年生、中1年生対象アンケートの定期的実施と分析

○S-kom、センターサーバー（専用グループ）の活用による3校の情報共有

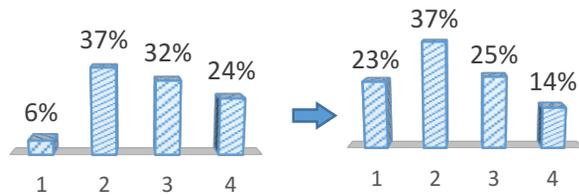


3校マスコットキャラクター「じゃとるん」

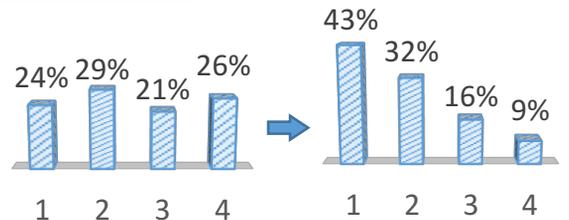
3 考察（成果と課題）

以下のグラフは、平成30年度と令和元年度に葵小・伝馬町小・城内中の小6・中1の児童生徒に、アンケートを取った結果である。グラフは、1「そう思う」 2「やや思う」 3「あまり思わない」 4「全く思わない」またグラフ左側は、平成29年もしくは30年度、右側は令和元年度の集計となる。

中1ギャップ解消、人間関係改善に向けた成果（変容あり）

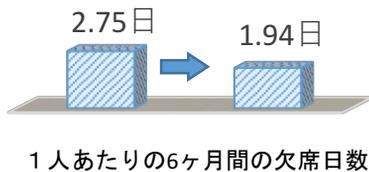


小学校と中学校との交流は、不安解消に役立っている。

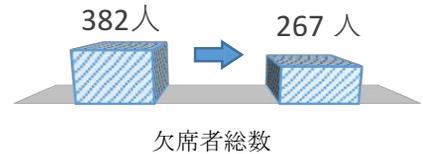


日頃家族や友達と、中学校での生活について話をする。

城内中学校1年生 H29年度とR1年度 欠席者数の比較 * 4月～9月末までの統計

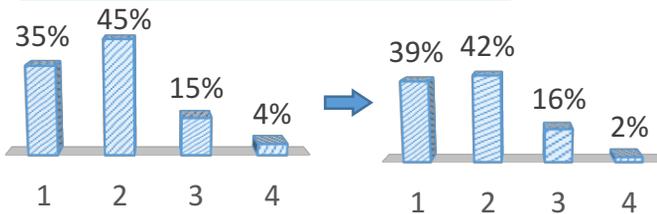


1人あたりの6ヶ月間の欠席日数

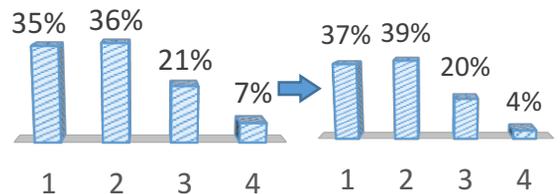


欠席者総数

学習面での課題（変容なし）



わからないことを、授業中に先生や友達に質問したり、聞いたりして解決している。



家では、授業の復習や予習をしている。

本グループでは2年間の研究の中で追跡アンケートを行ってきた。その結果から、生活面でのアンケート項目では大きな違いが見取れ、交流活動は中1ギャップ解消などに大変有効であった。

一方、学習や授業に関するアンケート項目での変化は少なく、変容があまり見取れなかった。本グループでは、2年前に学校教育目標の共有、昨年度は教育構想図の作成、そして9つのJATプランを作成し、9年間の教育課程について、目標を全職員で共有した。そしてそのJATプランを活用し、9年間の継続性、系統性を意識した教育課程の実践を積み始めたところである。しかし、実践をはじめてから期間がまだ日は短く、アンケート結果から学習面では、まだ成果が出ていない状況と考えられる。そのため学習面でも成果が出てくるよう、持続的に研究を深めて進めていき、小中一貫教育に基づいたPDCAサイクルを構築する。そして学校評価を行い、実践の深化を図っていかなければならない。また、作成し実践を始めたJATプランのブラッシュアップ、JATプランに結びつけたカリキュラム・マネジメントの研究を進め、より効果的・継続的な教育課程を築き成果を上げていきたい。

4 今後の方向性

- J A Tプランのブラッシュアップをし、より実態に即した教育活動を進める。
- 9年間の系統性をふまえた J A Tプランに、コミュニティ・スクールの考えを取り入れる。
- 単なる活動の統一にとどまることなく、常に教育目標とめざす姿を意識し、児童生徒が「3Sの精神を身につけた生徒」となるよう、さらに実践の積み重ねを行う。